

京 都 大 学

医 療 技 術 短 期 大 学 部 紀 要

第18号

1998年

目 次

原 著

- 赤松 智子, 谷垣 静子: 在宅難病患者の QOL 向上に向けた情報通信サービスのあり方 1
- 奥田 弘恵, 祖父江育子: 「看護学生の職業未決定について」——職業未決定尺度の下位尺度作成による検討—— 9
- 山根 寛, 小西 紀一, 赤松 智子, 小野 泉, 加藤 寿宏, 腰原 菊恵, 早川 宏子: 作業療法における臨床教育のあり方 15
- 亀山美智子: 女性画家奥原晴湖について 25
- YOKO YAMAMOTO, MASATOSHI FUJITA, YASUKI KIHARA, HIROYUKI SEKIGUCHI, SHIGERU EIHO, TZURU NAKAE, SHIGERU KUBO: Automatic processing of myocardial contrast echocardiograms of intravenous injection of contrast 35
- 山崎あけみ: 第4子を迎える女性が表現する機能している家族についての分析 43
- 業績集 53
- 抄 録 73
- 投稿規定 79
- 編集後記

投 稿 規 定 (平成5年6月16日改定)

投 稿：投稿論文は、総説、原著、短報などとし、本短期大学部教職員（元教職員を含む）が著者、または共著者であるものに限る。

論文の受付：原稿（表紙、本文、図、表など）はコピー2部を添え（計3部）、当該年度の6月30日までに、編集委員会に届ける。編集委員会に届けられた日をもって受付日とする。編集委員会は、割付けおよび全体としての統一などをはかるために、著者に対し表現方法その他の変更、削除などを求めることがある。

原稿の書き方：原稿は次の規定に従って書かれたものであること。

1. 表紙（原稿第一枚目）の前半には表題、著者名、所属およびその所在地、ランニング・タイトルをこの順に従って書く。なお外国語原稿の場合は、上記各項の日本語を併記する。

後半には原稿の枚数、図、表の数、別刷希望部数を書く。筆者の所属の表記は、筆頭者は無記号、共著者の所属が異なる場合はその著者名の右肩およびその所属名の冒頭に*、**……印をつける。

2. 原稿には、英文の表題、著者名、所属、抄録（20行、または200 words程度）およびKey words（8語以内）をつける。著者名の姓は、大文字で表記する。

3. 欧文原稿及び英文抄録は、必ずダブル・スペースでタイプする。また、当該国人が読んで、正確、明快に理解できるものでなければならない。

和文原稿は原則として、常用漢字、ひらがな、現代かなづかいを用い、B5版の400字詰横書き（論文の内容上とくに必要な場合は縦書き）原稿用紙に清書する。ワープロ使用の場合も、400字詰とする。外国語固有名詞（人名など）は原語を、一般に口

本語化された外国語は、片かなを用いる。度量衡は、CGS単位とする。

4. 論文の項目の区分は、原則として下記の例に従う。

大項目……無記号で下線をつけ、前を一行あける。原著論文の緒言(Introduction)、材料(Materials)、方法(Methods)、結果(Results)、考察(Discussion)などが相当する。

小項目……以下の順で使用する。

1., 2.……行の第1字目に記す。

1), 2)……行の第2字目に記す。

5. 図(Figure)および表(Table)にはそれぞれ別の通し番号をつける。図版(Plate)や写真(原則として白黒)は、図として取り扱う。

図はなるべく原寸大とし、明瞭でそのまま印刷できるものとする。図版は(14×20 cm)以内にまとめる。図は台紙(20×26 cm以下)に貼り、さらに薄紙のカバーをつける。カバーには筆頭者名、ランニング・タイトル、図の通し番号を記入する。

図・表の説明文は、まとめて原稿の末尾につけ、原稿本文中の欄外余白部に、図、表の挿入位置を朱記し明示する。

6. 謝辞は、本文の末尾に入れる。

7. 文献は、下記の要領に従い、引用順に配列し、本文の末尾に一括記載する。外国語文献は必ずタイプする。

本文中の文献引用箇所には著者名や引用文などの右肩に、その文献番号を¹, ^{1,3,6}, ²⁻⁵のように記す。

雑誌の場合

著者名(6名以下の場合)は全著者名、7名以上の場合)は最初の3名を記し、“他”または“et al”をつける)、表題、掲載誌名、発行年(西暦)、巻数(必要であれば号数)、頁数(始-終)の順に記す。雑誌略

名は、日本医学誌略年表（日本医学図書館協会編）および Index Medicus に従う。

〈例〉

- 1) Sakaguchi K, Jameson EW: Two new fleas from Japan. J Med Zool 1959; 10: 156-162
- 2) 菅沼美奈子, 内山和美, 三井政子: 性周期記録表の試み. 母性衛生 1978; 19: 76-82

単行本の場合

著者名（雑誌の場合と同様）、表題、編者名、書名、版数、発行地、発行所、発行年（西暦）、引用頁（始-終）または（1-終頁）の順に記す。なお著者と編者が同一の場合には、著者名、書名の順とする。

〈例〉

- 1) Wintrobe MM: Clinical Hematology: The erythrocyte. 7th ed. Philadelphia: Lea and Febiger, 1974: 80-220
- 2) Schwarts TW, Tager HS: Biosynthesis of pancreatic polypeptide. In: Bloom SR, Polak JM, eds. Gut Hormones. 2nd ed. Edinburgh, London, Melbourne, New York: Churchill Livingstone, 1981: 202-205
- 3) 富田 仁: 救急時検査の手技と解釈, アミラーゼ. 富田 仁, 熊谷直家, 内田耕太郎編, 検査診断マニュアル, 第1版. 東京: メヂカルフレンド社, 1978: 96-99
- 4) 城戸幡太郎: 文化心理学の探求. 東京: 国土社, 1970: 1-390
- 5) Pedretti LW: 身体障害の作業療法（小川恵子, 山口 昇, 青木真由美訳）. 東

京: 協同医書出版社, 1985: 103-115
同じ文献を再引用する場合

〈例〉

- 1) Eliot TS: The Complete Poems and Plays. London: Faber & Faber, 1969: 25
- 2) Yeats WB: A Vision. London: Macmillan, 1937: 13-17
- 3) Ibid., 18
- 4) Op. cit., The Complete Poems and Plays, 78
- 5) 砂原茂一: リハビリテーション. 東京: 岩波書店, 1980: 20-28
- 6) 中野 昇: 腰痛の臨床. 東京: 南江堂, 1976: 56-62
- 7) 同上, 31-35
- 8) 前掲書, リハビリテーション, 45-48

原稿の枚数: 原著論文, 総説は原則として図, 表などを含め刷り上り10頁以内, 短報などは同じく4頁以内, 学会・研究会の抄録などは同じく半頁以内とする。なお, 本誌1頁は, 400字詰原稿用紙約4枚分に相当する。図は手札大(9×13cm)が原稿用紙約2枚分に相当する。

校正: 著者による校正は, 再校までとし校正時における内容の変更や追加は認めない。

印刷費: 原画の描画を外部に依頼するときや, カラー写真印刷を希望するときなどは, その経費は著者の負担とする。

別刷: 印刷は50部を単位とし, 50部をこえる分の経費は原則として著者の負担とする。

編集後記

今年の紀要は、どれだけの教官が御投稿して下さるだろうかと心配と期待がないまぜになっており
ました。結果的には、従来どりの投稿状況に、紀要編集委員一同胸をなでおろしたものでした。

今回から本学の教育・研究に関する自己点検評価の一環として、今年発表された教官の業績集を掲
載することになりました。

毎年紀要に投稿することは多大な努力を要しますが、私共の研究成果を多くの方々に評価して頂け
るチャンスでもあります。

来年度以降も更に優れた研究成果を公表できる、充実した紀要としたいと思います。

1998年12月

紀要編集委員長	亀山美智子	
編集委員	加茂映子	大塚研一
	祖父江育子	藤田正俊
	木戸隆宏	鈴木康三
	市橋則明	赤松智子
	加藤寿宏	山崎あけみ

京都大学医療技術短期大学部紀要 第18号

Annual Reports of the College of Medical
Technology, Kyoto University No. 18

平成10年12月28日印刷発行

印刷 共同印刷工業株式会社
京都市右京区西院久田町78

発行 京都大学医療技術短期大学部
京都市左京区聖護院川原町53

ANNUAL REPORTS
OF
THE COLLEGE OF MEDICAL TECHNOLOGY,
KYOTO UNIVERSITY

No. 18

1998

CONTENTS

Originals

Tomoko AKAMATSU, Shizuko TANIGAKI : Research in Information and Telecommunication Service for Better Quality of Life of Intractable Disease Patients in Community	1
Hiroe OKUDA, Ikuko SOBUE : Vocational Indecision in Student Nurses — An Analysis Using a Subscale Derived from the Vocational Indecision Scale —	9
Hiroshi YAMANE, Norikazu KONISHI, Tomoko AKAMATSU, Izumi ONO, Toshihiro KATO, Kikue KOSHIHARA, Hiroko HAYAKAWA : The fieldwork education (experiences) in occupational therapy	15
Michiko KAMEYAMA : The Woman Artist Seiko Okuhara	25
Yoko YAMAMOTO, Masatoshi FUJITA, Yasuki KIHARA, Hiroyuki SEKIGUCHI, Shigeru EIHO, Izuru NAKAE, Shigeru KUBO : Automatic Processing of Myocardial Contrast Echocardiograms of Intravenous Injection of Contrast	35
Akemi YAMAZAKI : Analysis of Family Function as Perceived and Expressed by Women Expecting Her Fourth Child	43
Bibliography	53
Abstracts	73
Instructions to Authors	79
Editorial Notes	

Ann. Rep.
Coll. Med. Tech.,
Kyoto Univ.

ISSN
0286-7850